

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年9月28日  
枚方市立枚方中学校

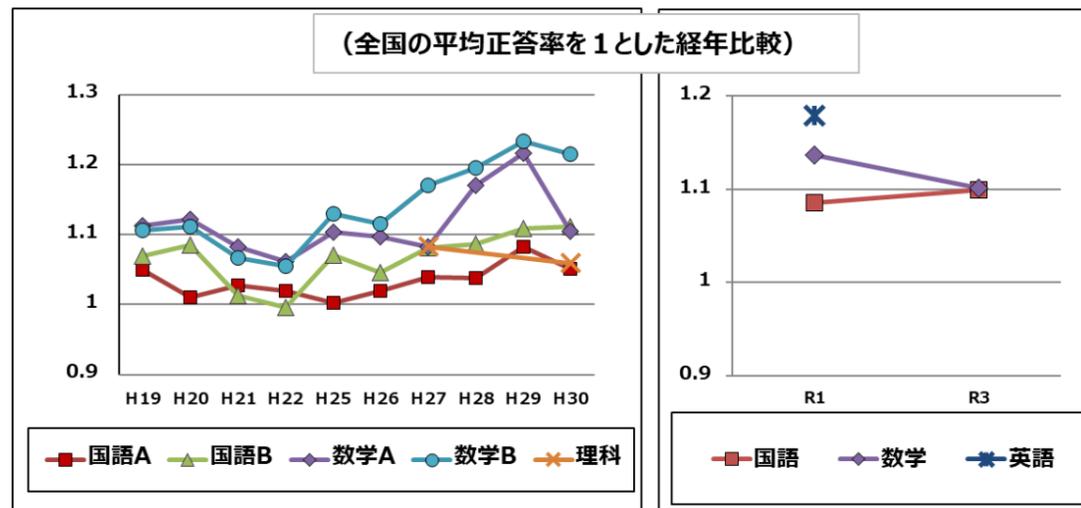
文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

## 【全体概要】

※調査結果について  
教科や出題範囲が限られていることから、  
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

## 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。  
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)

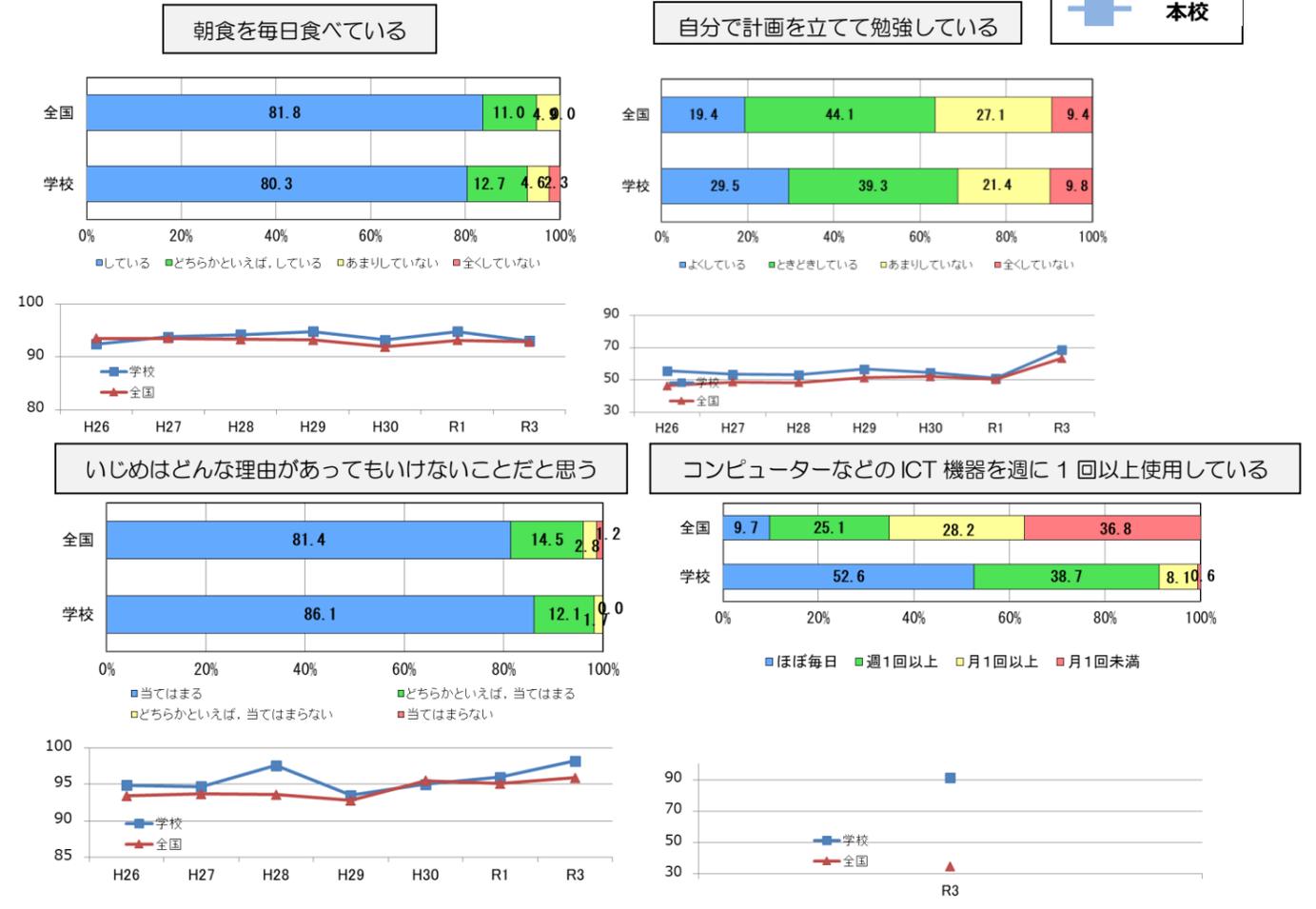


## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国  
■ 本校



## <学力調査結果の概要>

枚方中学校の生徒は、国語・数学ともに全国平均を超えていて、高い学力を有している。

### ○国語について

→学習指導要領の項目「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての項目において、全国平均を上回っていた。全ての教科において話し合いや発表など生徒が表現する機会を持つように取り組み、昨年度より朝読書や新聞コラムの取り組み等を継続的に行ってきた。これらの取り組みが功を奏していると考え。

### ○数学について

→学習指導要領の項目「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全ての項目において、全国平均を上回っていた。日頃から真剣に授業に取り組み、家庭学習においても着実に取り組んでいる成果だと考える。一方、「グラフの特徴を説明する」等自己の考えを表現する問題は、全国平均は上回っているが、無回答も多く課題が残る。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

※英語の調査は、令和3年度は行われておりません。

## <質問紙調査結果の概要>

○基本的生活習慣の定着「朝食を毎日食べている」→肯定的回答の割合が全国を上回っており、家庭での基本的生活習慣が確立されている。中学校生活を成立させるための基礎となる事項であり、本校生徒の強みである。

○学習規律の定着「自分で計画を立てて勉強している」→肯定的回答の割合が全国を上回っており、本校生徒の学習意欲、自分で主体的に学習を進める意識が高い。

○道徳的倫理的規範意識「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」→肯定的回答の割合が全国を上回っており、本校生徒の道徳的倫理的規範意識は高い。良好な対人関係を築く基礎となる事項である。

○タブレット等ICT機器の活用「コンピューターなどのICT機器を週に1回以上使用している」→肯定的回答の割合が全国を遥かに上回っており、学校全体で取り組んでいるICT機器の活用は成果を上げている。

## まとめ

質問紙調査結果から見える本校の生徒像は、家庭での基本的生活習慣が確立されており、学習意欲は高く、しかも主体的に学習を進める能力も有している生徒が多い。道徳的倫理的規範意識も高く、比較的良好な対人関係を築いている生徒が多い。学校全体で取り組んでいるICT機器の活用は成果を上げており、ICT機器の活用能力に長けた生徒も多い、ということになります。本校教育に対する保護者の皆様のご理解とご協力に感謝します。この結果に安心せず、本校の教育をさらに前進させたいと考えます。否定的な解答に対しては個別最適な課題を探索します。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

# 【詳細について】

## 教科に関する調査

### <国語>

#### 成果や課題があった設問

#### 【成果】

意見文の下書きの構成の工夫について、自分の意見を書く

【意見文の下書き】

① SNS（フェイスブック、ライン、インスタグラム）などで活用し、インターネット上で文字を入力したりする機会が増えてきている。私は、SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。② SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。③ SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。④ SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。⑤ SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。⑥ SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。⑦ SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。⑧ SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。⑨ SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。⑩ SNSではやり取りの速さから、相手に伝わりやすくなるように考えたり、文章を添削してもらったりすることがある。

	正答率	無解答率
本校	87.2	5.2
全国	74.5	8.5

#### （考察）

全国の正答率に対し、本校の正答率は非常に高い。国語科の授業では、「書くこと」に力を入れ、課題作文を多く書かせている。また、毎日新聞コラムを読んで、週末に課題作文を書く取り組みも継続的に実施している。また、全ての教科において意見や考えを發表させることに力を注いでいる。これらの取り組みが功を奏し、生徒の「書くこと」の力は向上している。

	正答率	無解答率
本校	21.5	18.6
全国	20.5	24.1

#### （考察）

後述するが、本校生徒の課題の一つに読書量が少ないことがあげられる。一日30分以上読書する生徒の割合は、枚方中20.8%、全国平均は28.9%。読解力は、読書量に比例する。この問題のように読解力と記述力を要求される複合問題は不得手とする生徒が多い。深い学力を身に付けさせるためにも、図書室とも協力して、主体的に読書することの意義を、様々な機会であらわす。

### <数学>

#### 成果や課題があった設問

#### 【成果】

数量の関係を一元一次方程式で表す

- ② ノート2冊と800円の筆箱1個を買ったときの代金と、ノート4冊と500円のシャープペンシル1本を買ったときの代金は等しくなります。ノート1冊の値段を求めるとき、ノート1冊の値段をx円として、方程式をつくりなさい。ただし、つくった方程式を解く必要はありません。

	正答率	無解答率
本校	84.3	4.7
全国	71.3	7.6

#### （考察）

全国の正答率に対し、本校の正答率は非常に高い。また、無回答率も低く、真面目な姿勢も顕著である。日頃数学の授業では、まず自分で考え、ペアや班で意見交換や教え合いを実践している。また、タブレットを活用して、興味関心を高める活動も行っている。このことから一元一次方程式だけではなく、全ての単元で、数学的に考える力、数学における基礎的学力、文章題を読み解く力は直実に向上している。

#### 【課題】

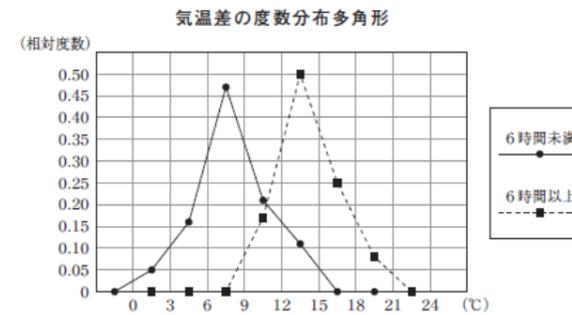
夏目漱石『吾輩は猫である』の一部を読んで、主人公の猫が他の猫ををどう評価し、どう接しているかや、そのような接し方をどう思うかを書く

④ 結合して「吾輩は猫である」の「吾輩」は「私」を指す。⑤ 「吾輩」は「私」を指す。⑥ 「吾輩」は「私」を指す。⑦ 「吾輩」は「私」を指す。⑧ 「吾輩」は「私」を指す。⑨ 「吾輩」は「私」を指す。⑩ 「吾輩」は「私」を指す。

#### 【課題】

「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する

- (3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

	正答率	無解答率
本校	6.4	27.3
全国	11.1	32.2

#### （考察）

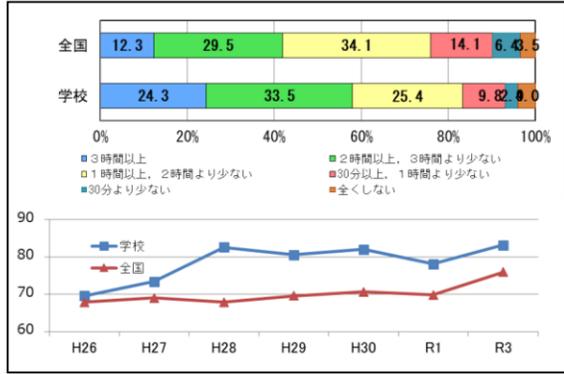
全国の正答率に対し、本校の正答率が低い唯一の問題である。数学的な思考力を基に、グラフを解析して、自己の考えを書かなければならない。他の問題の正答率から考察して、数学的な思考力が不足しているとは考えにくい。とすれば、説明をする力、要は言語力が弱いと考えられる。国語の課題でも見たが、読書量の寡少により、言語力が不足していると考えられる。あらゆる機会に言語力を伸ばす取り組みをする。

# 質問紙に関する調査

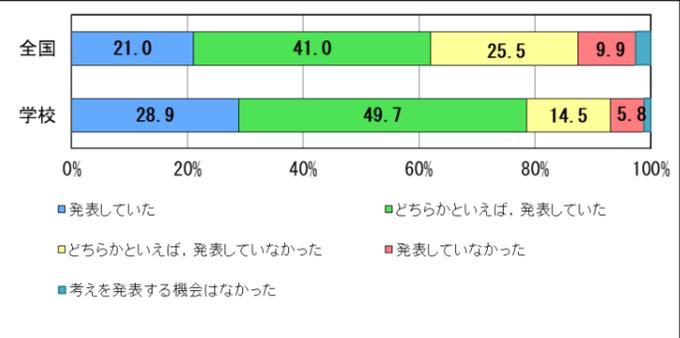
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

## 【成果のあった項目】

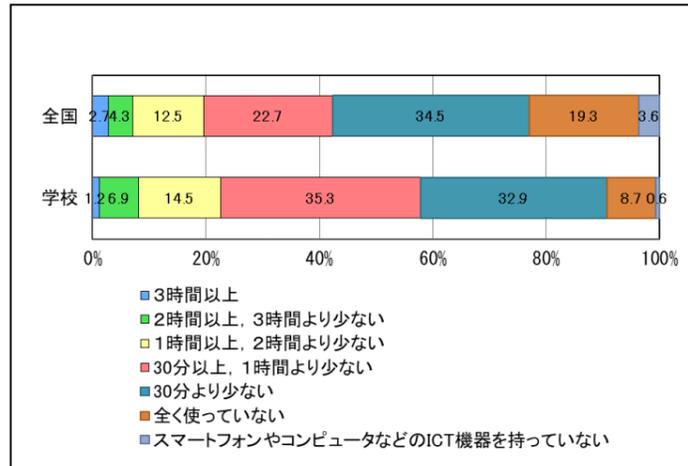
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している



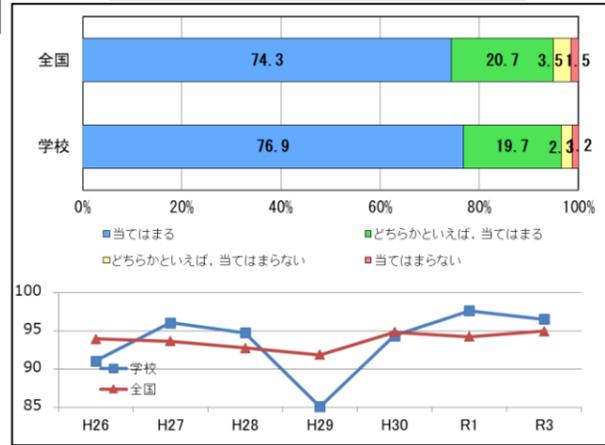
授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する



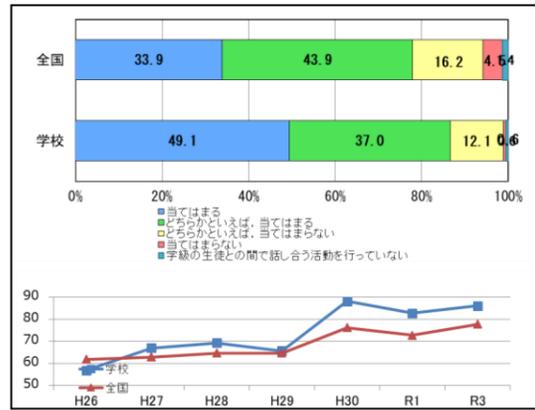
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピューターなどのICT機器を、勉強のために使っているか



人の役に立つ人間になりたいと思う



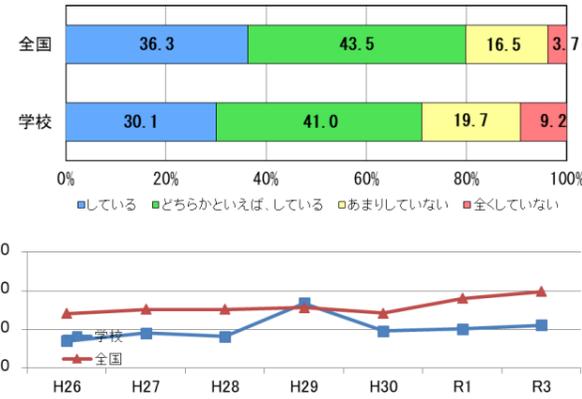
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



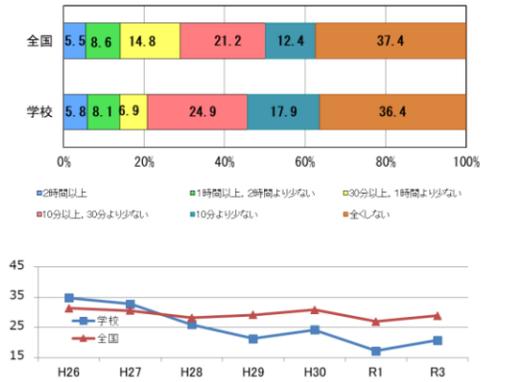
（考察）  
 ○「一日1時間以上勉強している」→肯定的回答の割合が全国を上回っており、本校生徒の高い学習意欲を表している。  
 ○「人の役に立つ人間になりたいと思う」→肯定的回答の割合が全国を上回っており、本校生徒の自己有用感、自尊感情が高まっていることを示している。自尊感情の向上は本校の重点目標であり、様々な取り組みが功を奏していると考えられる。  
 ○「工夫して発表する」「話し合う活動」→肯定的回答の割合が全国を上回っており、枚方スタンダードに基づく授業改善が進んでいることを示している。  
 ○「ICT機器を勉強のために使っている」→肯定的回答の割合が全国を上回っており、授業のみならず、生徒が主体的にタブレットを活用して学習していることを表している。

## 【課題が残った項目】

毎日、同じくらいの時刻に寝ている



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか



## （考察）

○「毎日同じくらいの時刻に寝ている」→肯定的回答の割合が全国を下回っており、本校生徒のやや不規則な生活、あるいは睡眠不足を表している。本校の生徒の多くは勉強のみならず、多様な活動を行っており、非常に多忙である。意欲が高いことはいいのだが、健康面で支障が出ないように気を付けてもらいたい。  
 ○「1日の読書時間」→肯定的回答の割合が全国を下回っており、本校生徒の多くの読書量の不足を表している。国語・数学の課題となった問題のところでも述べたが、本当に高い学力や現代の知識社会で高度な活躍をするためには高い言語力は欠かせない。言語力の基礎となるのは読書である。図書室とも協力して、読書好きな生徒を増やす取り組みをしていく。現在行っている新聞コラムの取り組みも引き続き行う。

## 分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

### (1) 学校運営・授業改善について

○「タブレット等 ICT 機器を活用した授業改善」は、今年度、本校が重点的に取り組んでいる課題です。全国学力・学習状況調査の結果から一定の成果が表れていると考えられますが、職員の研修・相互授業参観などに積極的に取り組み、さらに前進したいと考えます。保護者の皆様のご意見や感想を学校にお寄せください。

○タブレット等 ICT 機器は使えばいいというものではありません。枚方市教育委員会が定める授業スタンダードにも示される「主体的・対話的で深い学び」を実現させる道具です。従来の、教師が一方向的に講義をする授業は過去のもので、生徒が主体的に学び、ペアや班で話し合って考えを深めタブレット等 ICT 機器も活用しながら、最終的に深い学びに到達する授業を本校は目指します。

○生徒が深い学びに到達できるように、教師は生徒と丁寧かつ親切に対話し、支え、寄り添い、励ますとともに、生徒が深い学びに到達するための授業技術を高めていきます。

○生徒が主体的に学ぶための心の基本が自尊感情です。生徒の、「自分は大切な存在だ」という自己肯定感や、「自分は他の人の役に立っている」という自己有用感を育てなければなりません。その自尊感情が学習意欲の支えとなり、困難なことであっても挑戦する心を育み、自分を本当に大切にするためには他者も尊重しなければならないという人間関係の基礎となると考えます。人権感覚の基礎となるとも考えます。

枚方中学校では、可能な限り、学校運営に生徒を参画させて、自尊感情を高める取り組みを進めています。例えば、本校ではタブレット使用のルールを、教師ではなく、生徒が ICT 委員を中心に決めます。先日は靴下に関する生徒指導のルールを、生徒の意見を取り入れて改変しました。そのようないろんな生徒が活躍できる取り組みを進めます。

### (2) 家庭学習について

一人ひとりの生徒の学力を伸ばすためには、それぞれに適合した課題が必要です。今年度、枚方中学校では、タブレット等 ICT 機器を活用して個別最適な家庭学習を各教科で研究しています。成果を早く示せるよう努力します。